

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回川島町総合教育会議	
開 催 日 時	平成28年2月19日（金）	
開 催 場 所	川島町役場 第2委員会室	
議 題	(1) 川島町教育大綱について (2) 学校規模適正化計画について	
公開・非公開の別	公 開 ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	構成員	飯島和夫町長・若林昌善副町長・中村正宏教育長・ 深谷邦彦教育長職務代理・大野美寿代教育委員・ 菊池建太教育委員・福島彰教育委員
	事務局職員	石島一久課長・内野修一主幹・神田雅貴主査（以上政策推進課）、粕谷克己副教育長兼教育総務課長・坪内嘉夫主幹（以上教育総務課）、藤間隆課長（以上生涯学習課）
配 布 資 料	会議次第 資料1・2	
審議会等の内容・概要		
<p>1 開 会</p> <p>（司会より会議の開催にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。会議録については、発言委員名を記載して公開する旨で構成員より了承を得る。）</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p><b>町 長</b>：本日の会議の議事については、個人情報をもとに取扱っていないので公開とし、会議録の作成は、発言者の名前は記載し、要点をまとめて記録する。最後に、会議録の署名は、菊池委員を指名したい。</p> <p><b>教育委員</b>：異議なし</p>		

(1) 教育大綱について

(事務局にて、資料1を用いて説明)

**町長**：川島町教育大綱(案)は、既に策定した市町村と内容・ボリュームを比較するとどうか。

**教育総務課**：既に策定した市町村や埼玉県の大綱と比較してみても、内容・ボリュームともに遜色がないものと考えている。

**町長**：前回の会議でも話題となったが、基本理念の「たくましく」は、町民の方が見た場合に多様な捉え方があると思うので、改めて意味を確認したい。

**教育長**：体だけでなく、知徳体すべてにおいて、「たくましく」というイメージである。

**町長**：子供の確かな学力の向上については公約にも掲げている。あわせて、グローバル化が進行する状況において、チャレンジ精神・コミュニケーション能力が必要になってくると考える。学校教育の中で、これらの能力を培っていくために、何をなすべきか、菊池委員はどのようにお考えか。

**菊池委員**：これからの時代を生き抜くには、チャレンジ精神とコミュニケーション能力が必要である。学校教育の中で、チャレンジ精神は目標に向かって努力し達成感を味わうことで、子供たちはより高い目標を設定することができるので、そのような経験を積み重ねることが必要だ。その際、子供1人1人の伸びを評価する視点が必要だ。コミュニケーション能力は、学校の集団生活という環境を生かして育てるのがよい。近年、アクティブラーニングの必要性が示され、集団討論の導入が検討されている。集団討論は、お互いの考えを尊重しあうだけでなく、相手の考え方を聞くこともできる態度を育てる効果が期待されている。英語が話せるというスキルも大事だが、この態度を育てることも大切だ。

**教育長**：夢と目標があれば目の前の目標をクリアできる。キャリア教育の視点からも子供が目標を持つことは大切だ。

**町長**：「木を見て森を見ない」という言葉があるが、物事を柔軟にとらえること、全体の流れをとらえる視点が必要だ。

**教育長**：多様な意見を認め合えること、「折り合いをつける」ことは、大切なことである。

**町長**：基本目標の2の「子供の学力」、同じく3の「豊かな心、健やかな体の育成」は大切な内容である。基本理念にも、「たくましく心豊かな人づくり」と示している。それらを育むためにも、学校規模適正化、小中一貫教育といった環境づくり、地域や関係機関との連携といった仕組みづくりが必要不可欠と考える。今後の環境・仕組みづくりの過程で、大切にしていけるべきことについて、深谷委員はどのようにお考えか。

**深谷委員**：学校規模適正化計画の説明会が昨日終了し、学力の質を高める視点で様々な意見をいただいた。今後は、学力だけでなく、基礎体力の向上も必要であると考えますが、学校だけでなく家庭での取組も大切だ。そのためにも家庭教育が充実するように情報発信することが必要だ。

また、教員の資質向上のためにも積極的な学校開放、幼稚園教育の充実、小中一貫教育への理解を深めるなど、10年先を見据えて取組む必要がある。

英語教育に関しては、「話せる、聞ける、分かる」力を身につけることを目標に掲げ、川島町の特性として打ち出してほしい。

**町長**：教育の基礎は家庭教育にあると思っている。しかしながら、家庭教育を支援せざるを得ない状況でもあることも理解している。家庭教育に関する必要な取組みは、教育委員会でもしっかり推進してほしい。

**教育長**：英語教育の充実は、来年度予算に反映できるように進めている。

**町長**：子どもを育てるためには、家庭教育が基本であると思う。課題を抱える家庭がある中で、親に対する教育は必要である。今後、家庭の教育力の向上を図るうえで、大切にしていけるべきことについて、大野委員はどのようにお考えか。

**大野委員**：保護者代表としての意見となるが、家庭で子供とコミュニケーションをとることが大切だ。教育委員会で「家庭生活の約束6か条」を作成していただいたが、家庭内で一緒に取組む姿勢が必要だと思う。学力向上には家庭学習は必要で、保護者が子供の学力に関心を持ち、見守ってほしい。また、保護者が子供の学力により関心を高める意味で、テスト結果の公表が必要だと考える。

学校応援団・地域子ども教室・登下校の見守りなど、子供は地域の人とふれあうことで、あいさつ、礼儀、伝統文化を学んでいる。地域の人も子供を見守るなど、意識が高い人も多く、貴重な人材であると認識している。

**教育長**：子供の個人成績表は、家庭にお知らせしている。学校では、子供の個人成績をもとに、それぞれの子供の学力向上が図れるように取組んでいる。また、テストの結果公開については、今後検討をすべき課題であると認識している。

**町長**：生涯学習活動は、学習と地域づくりの線引きが難しいところがあるが、この活動で、川島町を明るく元気にしていただきたいと思います。生涯学習は、個人の学習・活動という面もあると思うが、全体的な視点から今後取組むべきことについて、福島委員からご意見をいただきたい。

**福島委員**：小学校の規模適正化にともない、地区公民館を中心にした地域コミュニティも大きく役割等が変化すると考える。高齢化が進む中で、地域自治が限界をむかえないために地域人材を活用する視点と、その活用自体が生きがいつくりになるような視点を据えるべきである。そのために地域の指導者のデータバンク化が必要だ。

また、小学校の規模適正化により、旧村単位の地域が再編成される場合には、学校の跡地利用の検討や町長の公約である「地域活動センター」を創設することで、地域の活性化、地域の教育力向上を図っていく必要がある。この課題は学校だけの問題ではないので、早急に検討委員会を組織してほしいと思う。

伝統文化・芸能については、文化財としての指定、発表の場の確保、伝統文化・芸能・川島町の歴史について学べる機会を設けることで、これらが消滅しないように支援することが必要である。

**町長**：庁舎の移転、および小学校が統合により空き施設ができるので、公共施設のあり方や、地域の活性化もふくめて検討する必要がある。この点については、3月議会で考え方を表明していきたいと考えている。このような地域づくりを検討する際には、住民・行政・教育委員会等が総力を挙げて、共に知恵を絞り、共に汗を流すことがなくては成功しないと考える。

教育大綱の目標を達成していくには、教育委員会部局は中核的な役割を担うことになろうかと思う。首長部局としても、皆様のご意見をふまえて、果たすべき役割を積極的に取組むつもりである。ぜひ、教育委員の皆様もご指導・ご尽力のほどよろしくお願ひしたい。

本大綱については、本日の案をもって策定としますがいかがだろうか。

**教育委員**：異議なし。

**町長**：では、資料の「案」をおとりいただきたい。

(2) ①学校規模適正化計画について

(事務局にて、資料2を用いて説明)

**町 長**：学校規模適正化の方針が4校統合から、住民の声を受けて2校統合に変更になった。この変更後の説明会についても、その都度報告を受けているが、丁寧に説明していただいたと思っている。平成30年の小学校統合という期限を踏まえれば、この機会に決断をしたいと思う。今後は、統合の協議会を作ることになるが、これまでと同じように丁寧に説明をしてもらいたい。

**菊池委員**：現在、学校の児童・生徒の人数が減り、男女比もアンバランスになる等、学ぶ環境として適切でない状況である。本町は学力の向上という課題も抱えている。学校規模適正化については、5年にわたり議論してきたもので、ぜひ将来を見据えて、今決断をしていただきたいと思っている。

**教育長**：学校統合は、子供の問題だけでなく、地域づくりまで含めた課題であると説明会に参加して感じた。本計画を進めるにあたっては、子供のことを第一に考え、また地域づくりのチャンスであると捉えていきたいと思う。

**町 長**：「学校規模適正化計画」については、本総合教育会議において、私と教育委員会の双方が合意をした事項とします。

**事務局**：本日の会議をもって本年度の会議は最後となります。

4 閉 会

署

名

菊池 建太

